

あおもりフィールドスタディ

支援事業補助金交付申請

りんごの木の紙 プロジェクト

～和紙づくりから
まちづくりへ～

事業区分：単独
(青森市)

団体名：apple branch

代 表

三
浪
尾
木

上
岡
崎
村

璃
晴
綾
心

恋
夏
香
愛

(青森中央学院大学 竹内ゼミ所属)

青森市浪岡地区の課題-人口減少の厳しさ

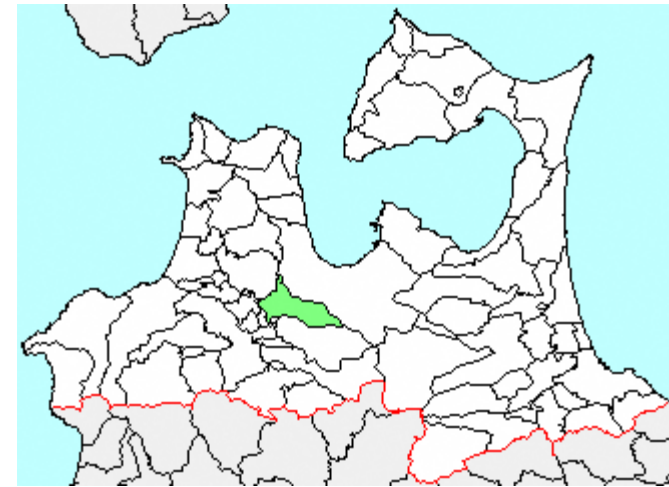
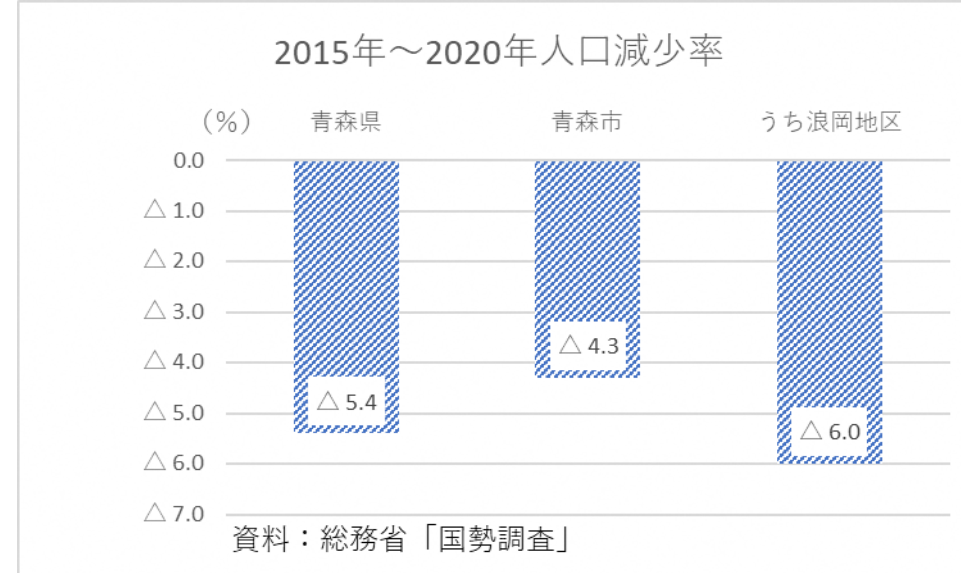
2020年国勢調査 市町村別ランキング

青森市は 人口減少数：全国ワースト10位

転出超過数：全国ワースト 3位

浪岡地区（旧浪岡町）の人口は約1万7,000人、青森市の6.2%を占める。

人口減少率は青森県内
平均を超え、青森市の
中でも極めて減少幅が
大きい



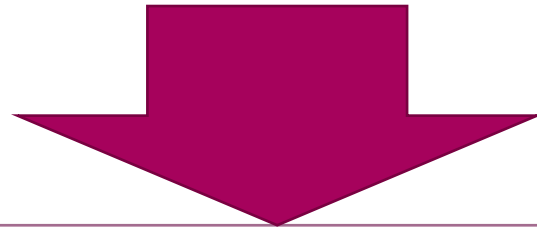
本プロジェクトのテーマ

- 浪岡地区の立地：青森空港、東北自動車道、津軽横断道路、国道7号線アクセスに優れ、交通結節点としてのポテンシャルは高い。今後の移住・定住促進、関係人口増加に期待したいが、まずは元気を取り戻すことから始めたい。

本プロジェクト りんごの木の紙づくり …和紙づくりから

地域住民によるシンボリックなコンテンツ作成

- I. 未利用資源（リンゴ剪定枝）・有休資源（空き家）を活用したワークショップ
- II. リンゴ和紙を用いた商品の企画・販売



シビックプライドの醸成
まちづくりへの意欲と賑わい
特産品の開発・販売による経済活性

りんごの木の紙づくり …まちづくりへ

浪岡地区の活性化

地域ならではの未利用資源活用とは

○ 特産品であるリンゴの剪定枝を活用して
青森市浪岡地区の元気を取り戻したい。

- 青森市浪岡地区のリンゴ生産では大量の剪定枝が発生。（推計1万1,000トン）
- ほとんどが可燃ごみとして焼却処分されている。（聞き取り）
- 野焼きによる環境汚染等も課題となっている。（聞き取り）



- リンゴの剪定枝を使って和紙を作成する。
- 和紙及び和紙を活用した製品を製作するワークショップを空き家活用の会場で開催し、地域コミュニティを活性化する。シビックプライドの醸成を図る。
- 特産品を生み出し「売れる」商品に磨き上げ、経済的な価値を追求する。

事業の目的と内容（今年度の具体的フィールドワーク）

1. 和紙製作の試行とワークショップ開催に向けた準備

- ⇒ 和紙製作の事業所自体が青森県内にない状況で、リンゴ剪定枝を和紙にする手順を、我々自身が身につけなくてはならない。（和紙製作の試行）
 - 既存の施設でのメンバー自身による紙漉きワークショップ実施。
 - 手すきに必要な原材料の調達、チップ化の委託、必要資材・薬剤等の調達に着手し、和紙製作ワークショップ開催に向け、試行を重ねる。

2. 「和紙漉き」のワークショップ開催（地域特産品開発に向けた第一段階）

- ⇒ 主に地域住民を対象とした和紙製作の体験ワークショップを開催し、本事業の目指すゴールを伝えながら、地域住民の興味と参画を促す。

※ なお、ワークショップの開催場所は、「浪岡地区移住・定住促進協議会」とタイアップして、空き家をリノベーションした会場で行う。

⇒遊休資産（空き家）活用による、地域コミュニティの活性化

事業の目的と内容（今年度の具体的フィールドワーク続き）

3. 製品化の試行（地域特産品開発に向けた第一段階）

⇒ 2.のワークショップ開催と並行して、試作品の和紙（小さなサイズ）を活用した商品化に向け、デザイナーや造形作家の協力を仰ぎながら、活用商品の試作に着手する。

※ 地域の特産品としての展開が最終目標だが、まずは、小型の和紙活用商品のプロトタイプ化までを今年度事業とする。

4. 報告会の実施

⇒ 今年度のフィールドワークの成果を総括して、地域住民と関係者に向けた報告会を実施する。本報告会は、試作商品等を紹介しながら、次年度以降の商品企画や高付加価値化に向けた活動を議論するワークショップを兼ねる。

※ なお、報告会の開催場所は、住民ワークショップと同様、空き家をリノベーションした会場で行う。（協力：浪岡地区移住・定住促進協議会）

収支予算

1. 収入（財源）

単位：千円

区分		予算額	摘要
自己負担額		200	
	竹内研究室研究費	200	青森中央学院大学教授（指導教員）
	市補助金額	400	本件申請額
その他			
合 計		600	

収支予算

2. 支出

(単位：千円)

科目	予算額	内訳			摘要
		自己負担	補助金	その他	
①事務費	50	10	40		消耗品費等
②原材料費	250	50	200		剪定枝、ネリ材、温泉水、チップ加工費ほか
③報償費	100	20	80		研修謝礼・アドバイザー謝礼等
④使用料・賃借料	20	4	16		浪岡会場賃借（試行等は青森中央学院大学で開催）
⑤印刷製本費	15	3	12		イベントチラシ
⑧旅費交通費	15	3	12		調査打合せの移動経費、青森中央学院大学－浪岡庁舎 20.1キロ、ガソリン代 10往復
紙漉き器購入費	150	30	120		紙漉きセット×10
合 計	600	200	400		

以上のとおり、総事業費 600 千円に対し、400 千円の申請となります。

連携を予定する団体

1. 浪岡地区移住・定住促進協議会
2. 青森市（浪岡庁舎地域づくり振興課、青森産品支援課）
3. artstudio tete 代表 石岡有佳子
（ワークショップデザイナー、無償の事業パートナー）
4. 青森中央学院大学 竹内ゼミ （担当教員：竹内紀人）

活動スケジュール

- 6月 : 関係者打合せ
- 7月 : 浪岡地区現地調査
和紙製作に向けた各種調整、調査
メンバーによるワークショップ（紙漉き試行）
- 7月～12月 : 和紙製作の試行、商品プロトタイプへの着手
住民紙漉きワークショップ実施への準備
- 1月 : 住民対象紙漉きワークショップの実施
- 2月 : 活動内容、調査研究成果のまとめ、報告会実施
- 3月 : 成果報告書の提出

最後に：本申請への想い

- 本来は、本格的な商品化や高付加価値化まで進める計画を申請したかったが、青森県内には紙漉きの製造事業所が皆無である。
- そうした中、原材料等の調達をどのようにすればよいのか、コストはどの程度かなど、かなりの部分を手探り状態から始めなければならない事業となる。
- そこで、まずは欲張らずに、浪岡地区のリンゴ剪定枝でしっかりと和紙を作って見せる事、それを地域の遊休資産活用拠点で地域の方々と共有することが、何より最初にしなければならないことだと考えた。
- 1年では終わらない地域活性化事業を目指し、ワークショップの開催と商品化の第一歩と言える試作品を完成するところまでたどり着くフィールドスタディを考えている。是非ともご支援をお願いいたします。